

小浜キャンパス海洋生物資源学部棟 空調設備更新工事

M】空調設備工事	
00. 表紙・図面リスト	10. 4階空調設備図(その2)
01. 機械設備工事特記仕様書(その1)	11. 5階空調設備図(その1)
02. 機械設備工事特記仕様書(その2)	12. 5階空調設備図(その2)
03. 配置図・案内図	13. 6階空調設備図(その1)
04. 機器表(撤去・新設)	14. 6階空調設備図(その2)
05. 各階平面図(その1)	15. 7階空調設備図
06. 各階平面図(その2)	16. 外形寸法図 ATP32FA
07. 1階空調設備図	17. 外形寸法図 APP22EA・36EA L(隠蔽型)
08. 2階空調設備図	18. 外形寸法図 APP22EA・36EA R(隠蔽型)
09. 4階空調設備図(その1)	

令和 5年 5月
公立大学法人 福井県立大学

機械設備工事特記仕様書

(R. 2. 4改訂)

I. 工事概要						
1. 工事場所 福井県小浜市学園町1-1						
棟名称	構造	階数	延べ面積 (m ²)	消防法施行令別表第一	建築基準法別表第一の用途	備考
A: 海洋生物資源学部棟	RC造	7	-	-		
B:						
C:						
D:						

3. 工事種目 (●印を付けたものを適用し、各一式とする)

棟別および屋外 工事種目	適用区分				
	A	B	C	D	屋外
空気調和設備	●	○	○	○	
換気設備	○	○	○	○	
排煙設備	○	○	○	○	
自動制御設備	○	○	○	○	
衛生器具設備	○	○	○	○	
給水設備	○	○	○	○	○
排水設備	○	○	○	○	○
給湯設備	○	○	○	○	
消火設備	○	○	○	○	○
ガス設備	○	○	○	○	○
浄化槽設備	○	○	○	○	○
厨房機器設備	○	○	○	○	
昇降機設備	○	○	○	○	○
撤去工事	●	○	○	○	○

4. 別契約の関連工事

○建築関係工事 ○電気関係工事 ○給排水関係工事 ○空調関係工事
○その他工事 ()

5. 工期

別に示す公告等による。
(但し、下記に指定する部分の工事については令和 年 月 日完成)
指定部分

II. 工事仕様

1. 共通仕様

- 現場説明書、特記仕様書、設計図面に記載がない事項は、国土交通省大臣官房官舎部の仕様書等による。「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成31年版）」（以下、「標準仕様書」という。）「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成31年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）
- 工事現地に電気設備工事および建築工事を含む場合、その仕様は該当図面による。
- 設計変更の対象事項および手続きならびに工事一時中止に係る手続き等は、「工事請負契約におけるガイドライン（総合版）」（福井県土木部）による。

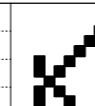
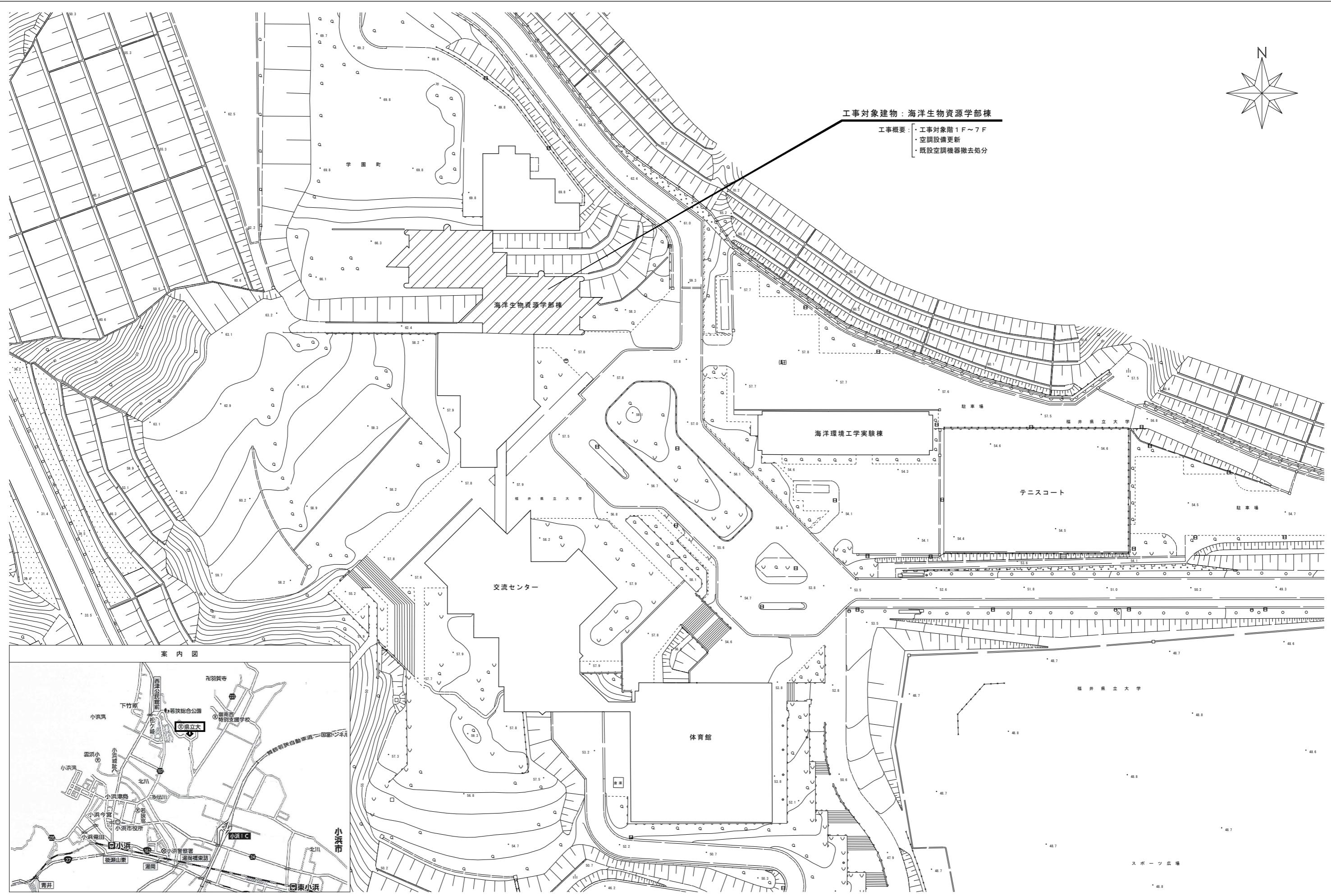
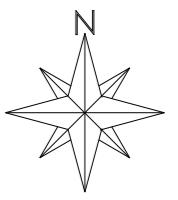
2. 特記仕様

- 項目および特記事項は、●印のついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は※印を適用する。

章	項目	特記事項
一般事項	●施工条件	現場説明書による。
	●事務処理	福井県営繕工事監督事務処理要領による。
	●近接工事の間接費等	密接に關係のある同一工事区内の追加工事（同一工程とは限らない）を現工事と同一施工業者が落札した場合は、両工事を合算したもので落札後調整を行う。
	●施工計画書	標準仕様書第1編1.2.2により施工計画書を作成し、監督職員に提出する。
	●施工体制の確保	建設業法によるほか、下記により工事現場における適正な施工体制の確保を図る。
		(1) 提出書類 1 施工体制台帳および施工体系図の写し 2 工事担当技術者台帳の写し 監理技術者および主任技術者（下請負を含む）の顔写真、氏名、生年月日、所属会社名を記載し、施工体制台帳または施工計画書に添付する。 3 工事元請・下請関係者届出書 該当なき場合はその旨を記入し提出する。
		(2) 工事実績情報の登録（工事請負代金額が500万円以上の工事） 工事実績情報サービス（CORINS）に基づき、工事の受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督職員の確認を受けたうえ、期限内に登録機関に登録申請しなければならない。 また、登録完了後は「登録内容確認書」を直ちに監督職員に提出しなければならない。 (3) 名札の着用 監理技術者および主任技術者（下請負を含む）および元請業者の専門技術者は、工事現場において、工事名、工期、顔写真、氏名、所属会社名、社印および発行年月日が記載された名札を着用する。
		●官公署その他への手続 工事に必要な官公署等への手続は標準仕様書第1編1.1.3又は改修標準仕様書第1編1.1.3による。官公署等への諸手続および費用は受注者の負担とする。
		●主任技術者等の資格 別に示す公告等による。
		●技能士（1級）の適用 下記の職種について適用するよう努める。 ○配管（配管工事） ○建築板金（ダクト製作および取付） ○熱絶縁施工（保温工事） ○冷凍空調機器施工（冷凍空調機器の据付および整備） ○（ ）
	●下請負人の選定 下請負人を選定する場合には、福井県内に主たる営業所を有する者の中から選定すること。 ただし、あらかじめ書面による承認を受けた場合は、この限りではない。（福井県建設工事元請下請関係正化指導要綱第7条）	
	●公共事業労務費調査 公共事業労務費調査の対象工事となった場合（工期超過後も同様）には、調査票の記入等について必要な協力を行う。	

一般事項	●工事用資材の選定	工事材料や物資等の調達においては、福井県内に主たる営業所を有する者の中からの調達および県産品の活用に努める。また工事完成時に県産品使用実績報告書を監督職員に提出する。	
	●設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図面に規定するもの、または、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承認を受ける。	
		また、設備機材等の製造者は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとし、証明となる資料または外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承認を受けるものとする。	
		(1) 品質および性能に関する試験データが整備されていること。 (2) 生産設置および品質の管理が適切に行われていること。 (3) 安定的な供給が可能であること。 (4) 法令等で定める許可、認可、認定または免許等を取得していること。 (5) 製造者は施工の実績があり、その信頼性があること。 (6) 販売、保守等の営業体制が整っていること。	
	●機材等の検査・試験	標準仕様書または改修標準仕様書による。	
	●工事検査・技術検査	監督職員の指示による。	
	○工事成績評定の対象	※請負金額250万円未満の場合、評定しない。 (工事成績評定要領第2条)	
	●化学物質を放散させる建築材料等の使用制限	本工事に使用する材料等は、設計図面に規定する所の品質および性能を有すると共に、次の(1)から(6)を満たすものとする。	
		(1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、單板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保溫材、緩衝材、断熱材、塗装、上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 (2) 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 (3) 接着剤は可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 (4) (1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。	
		なお、ホルムアルデヒドを放散させないものとは放散量が規制対象外のものを、ホルムアルデヒドの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものをいい、原則として規制対象外のものを使用するものとする。ただし、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。	
一般事項	●建設発生の処分	撤去を行う場合は、改修標準仕様書第1編第4章によるほか、次による。 工作物撤去後の修復は（※モルタル補修 ○）とする。	
	○再使用機材	取り外し後再使用する機材は、改修標準仕様書第1編1.4.3による。なお、ファンコイルユニット等の見えがかり部分は、洗剤を使用するなどして十分に清掃を行う。	
	●発生材の処理等	(1) 標準仕様書第1編第1.3.9 または改修標準仕様書第1編第5章による。 引き渡しを要するもの ※なし ○あり（機器類・金属類等） 家電リサイクル法による効率を要するもの ○なし ○あり（図示） フロン系冷媒使用機器の撤去 ○なし ●あり 上記機器類の撤去は改修標準仕様書第3編2.4.2、2.4.3及び第5編2.3.2による。	
		(2) 冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う。 (家電リサイクル法対象機器を除く) 運搬および処分は（※本工事 ○別途	
		(3) の次のアスペスト含有資機材を含む部分の施工に際しては関係法令に従い適切な対策を講じた上、適切に処分すること。 ○ダクトパッキン ○配管エルボ部保温材 ○煙道の断熱材 ○ボード等内外装材 ○分析調査によりアスペスト含有資機材と判定されたもの	
		(4) 上記(3)に示す部位のうち、アスペスト含有調査の判断は以下による。 ダクトパッキン ※含有をみなしとし調査不要 ○含有をみなしとせず調査必要 配管エルボ部保温材 ※含有をみなしとし調査不要 ○含有をみなしとせず調査必要 ボード等内外装材 ※含有をみなしとし調査不要 ○含有をみなしとせず調査必要	
		(5) 次のアスペスト含有調査により、資機材のアスペスト含有の有無を確認する。 ※JIS A 1481-2「試料採取及びアスペスト含有の有無を判定するための定性分析方法」 またはJIS A 1481-3「アスペスト含有率のX線回折定量分析方法」による。 調査費用 ※本工事 ○別途	
		(6) 分析結果については、監督職員に報告すること。	
		分析調査対象資機材	分析調査対象資機材
		●耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、基礎、梁台、アンカーボルトについて耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基礎施工要領は標準図（施工25～29）による。
一般事項	●設計図	●設計図 A 1の白焼きを（ 1 ）部、A 3の白焼きを（ 1 ）部製本し提出する。	
	●著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。	
	●一年点検	受注者は「県有施設一年点検実施要領」に基づき一年点検を実施し、報告書を提出する。 施工上の瑕疵による不良箇所があれば改修する。	
	●耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、基礎、梁台、アンカーボルトについて耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基礎施工要領は標準図（施工25～29）による。	
		●設計図	●設計図 A 1の白焼きを（ 1 ）部、A 3の白焼きを（ 1 ）部製本し提出する。
		●著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
		●一年点検	受注者は「県有施設一年点検実施要領」に基づき一年点検を実施し、報告書を提出する。 施工上の瑕疵による不良箇所があれば改修する。
		●耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、基礎、梁台、アンカーボルトについて耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基礎施工要領は標準図（施工25～29）による。
		●設計図	●設計図 A 1の白焼きを（ 1 ）部、A 3の白焼きを（ 1 ）部製本し提出する。
		●著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	●一年点検	受注者は「県有施設一年点検実施要領」に基づき一年点検を実施し、報告書を提出する。 施工上の瑕疵による不良箇所があれば改修する。	
	●耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、基礎、梁台、アンカーボルトについて耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基礎施工要領は標準図（施工25～29）による。	
	●設計図	●設計図 A 1の白焼きを（ 1 ）部、A 3の白焼きを（ 1 ）部製本し提出する。	
	●著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。	
	●一年点検	受注者は「県有施設一年点検実施要領」に基づき一年点検を実施し、報告書を提出する。 施工上の瑕疵による不良箇所があれば改修する。	
	●耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、基礎、梁台、アンカーボルトについて耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基礎施工要領は標準図（施工25～29）による。	
	●設計図	●設計図 A 1の白焼きを（ 1 ）部、A 3の白焼きを（ 1 ）部製本し提出する。	
	●著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。	
	●一年点検	受注者は「県有施設一年点検実施要領」に基づき一年点検を実施し、報告書を提出する。 施工上の瑕疵による不良箇所があれば改修する。	
	●耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）により、基礎、梁台、アンカーボルトについて耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基礎施工要領は標準図（施工25～29）による。	
	●設計図	●設計図 A 1の白焼きを（ 1 ）部、A 3の白焼きを（ 1 ）部製本し提出する。	
	●著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権	

O屋外埋設配管	標準仕様書第2編 2.7.1 または改修標準仕様書第2編 2.5.1 による。 (1) 埋設深度は、次のとおりとする。ただし、寒冷地では凍結深さ以上とする。 ※地表面（舗装がある場合は、舗装下面（路盤））から 300mm 以上 ※車両道路（構内車両道路程度） 地表面から 600mm 以上 ○ 地表面から mm 以上 (2) 配管下端（管底-100mm）および配管上端（管頂+100mm）に砂地床（山砂類または再生材）を施したあと、根切り土の中の良質土で埋戻す。 (3) 管を埋戻す場合は、土被り 150mm 程度の深さに埋設表示用アルミテープまたはボリエチレンテープ等を埋設する。ただし、排水管は不要とする。 (4) 曲りおよび分岐部には地中埋設部を打込むこと。		●方式 ○全空気方式（O中央 O各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式 ●主要熱源機器 機器 ○吸収冷温水機 ○チーリングユニット ○ボイラー ●空気熱源ヒートポンプユニット ○コージェネレーション装置 ○空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機（OHEP OGHF O） 燃料 ○灯油 ○A重油 ○LPG ○都市ガス ●電気[○深夜電力] ○ペレット ○設計時の温湿度条件 場所 屋外 屋内（調整目標値） 一般居室 ○○○○室 時 期 温度(°B) 湿度(RH) 温度(°B) 湿度(RH) 温度(°B) 湿度(RH) 夏 期 °C % 28°C 50% °C % 冬 期 °C % 19°C 40% °C % ○ダクトの種別 ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保溫および塗装 (1) 標準仕様書ロックウール保溫材、グラスウール保溫材及びボリスチレンフォーム保溫材が供給されている箇所は、いずれかを使用する。ただし、給水管については、開渠内（ビット含む）、屋外露地および浴室、厨房等の多温箇所につきボリスチレンフォーム保溫材とし、排水管については、浴室、厨房等の多温箇所につきボリスチレンフォーム保溫材とする。 (2) 屋外露出し配管（冷媒管を除く）の保溫外装材は次による。 ○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛板 (3) 屋内露出し配管（冷媒管を除く）の保溫外装材は、原則、合成樹脂製カバー1とする。 (4) ブ・ストレーナなどの金属製カバーおよびタンク類の保溫外装材の種別は、次による。 ○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛板 ○アルミニウム板 ○アルミニウム板 (5) 車庫に露出のダクトおよび配管の保溫は、機械室による。 (6) 各場所に露出の保温は施さないダクトおよび配管の塗装は以下による。 外壁通り ※要 ○不要 書庫 ○要 ※不要 屋上階 ○要 ※不要 機械室 ○要 ※不要 車庫 ○要 ※不要 一般居室、廊下 ※要 ○不要 倉庫 ○要 ※不要 (7) 合成樹脂製支持受 液密質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ボリスチレンフォームに準ずるもの ○吹出口および吸込ボックス ポックスの材質について、特記がない場合は亜鉛板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は JIS A 4009（空気調和および換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ 0.6mm 以上の亜鉛板は保溫厚さ 2.5mm とする。 ○エボキシ樹脂 エボキシ樹脂コーティングおよびライニングの乾燥方法は次による。 ライニング ○常温乾燥 ○電線類および電線管 電線類および電線管等については標準仕様書第4編第1章第5節による。 ○ボックス 樹脂管で配管する場合は、合成樹脂ボックスを使用する。 ○容量等の表示 機器の能力、容量等は表示された数値以上とする。 但し、電動機の出力、燃料消費量および圧力損失は表示された数値以下とする。 ○誘導電動機 電動機出力が 0.75kW 以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トップランナー-モータ）による。 ○スリーブ 柱、梁および耐震壁以外の箇所で、開口補強が必要かつ、スリーブ径が 200mm 以下の部分に対する場合は、紙製板金を使用してもよい。その場合は、変形防止の措置を講じ、かつ配管施工前に板金を必ず取り除く。 ○鋼材工事 機器付属物および配管、ダクトの支持金物は標準仕様書第2編第4章第6節または改修標準仕様書第2編第7章第5節による。 ○はつり及び穴開け はつりおよび穴開けを行う場合は、改修標準仕様書第2編第4章による。 ○防煙ダンパーおよび防火防煙ダンパー 復帰方式は ※遠方復帰式 ○手動復帰式 ○消音内貼 ダクト内にチヤンバー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は次による。 (1) 消音内貼り部分の外部保溫は ○要 ※不要 (2) チヤンバーの寸法は、外形寸法を示す。 (但し、ダクトおよび消音エルボは、内形寸法を示す。) (3) 空気調和機に取付けるチヤンバー、レタシヤンバーおよびダクト系で消音内貼りしたチヤンバーには、内貼り仕様または断熱戸の点検口を設ける。 ○防火区画貫通部等の処理 (1) 標準仕様書第2編2.8.1(1) または改修標準仕様書第2編2.6.1(1) による。 (2) 大臣認定を受けた工法で施工する場合は、認定書の写しを提出し、監督職員の承諾を受けるとともに、認定工の表示を行う。 ○取付栓 防火区画部に取り付ける吹出口、吸込口等で取付栓を必要とするものは鋼鉢を使用する。 ○防火区画 ○平面踏 ○表示 ○ ○指示板 機械室に操作順、注意事項、連絡先および系統図などを記入した指示板を設ける。 ○他工事との取り合い 国面に特記なき場合は、表-2「工事区分表」によるほか、機器の設置位置等取り合いの検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 ●総合調整 下記の項目について調整する。 ●空気調和設備 ○風量調整（測定共） ○水量調整（測定共） ○室内内外空気の温湿度測定 ○室内空気およびじんあいの測定 ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○停電・復電動作確認 ○換気設備 ○風量調整（測定共） ○室内空気およびじんあいの測定 ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○停電・復電動作確認 ○排煙設備 ○風量調整（測定共） ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○給水設備 ○飲料水の水質の測定 ※厚生労働大臣告示119号 第二の一の1の(4)による ○標準仕様書による ○離用水の水質の測定 ※建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則 第四条の2による	●方式 ○全空気方式（O中央 O各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式 ●主要熱源機器 機器 ○吸収冷温水機 ○チーリングユニット ○ボイラー ●空気熱源ヒートポンプユニット ○コージェネレーション装置 ○空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機（OHEP OGHF O） 燃料 ○灯油 ○A重油 ○LPG ○都市ガス ●電気[○深夜電力] ○ペレット ○設計時の温湿度条件 場所 屋外 屋内（調整目標値） 一般居室 ○○○○室 時 期 温度(°B) 湿度(RH) 温度(°B) 湿度(RH) 温度(°B) 湿度(RH) 夏 期 °C % 28°C 50% °C % 冬 期 °C % 19°C 40% °C % ○ダクトの種別 ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保溫および塗装 (1) 標準仕様書または改修標準仕様書の当該事項による。ただし、次の部分は本仕様とする。 (国面特記部分は除く) 1) 冷媒管の保温外装は次による。					---	---	--		屋内	単独配管	隱い部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（塗化ビニル製） ○合成樹脂製カバー1 露出し部 ※要 ○要 ○保温化粧ケース（塗化ビニル製） ○合成樹脂製カバー1		屋外	集合配管	隱い部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（塗化ビニル製） ○合成樹脂製カバー1 露出し部 ※要 ○要 ○保温化粧ケース（塗化ビニル製） ○合成樹脂製カバー1		屋内	単独配管	○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛板		屋外	集合配管	○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛板 ○保温化粧ケース（O樹脂製○溶融アルミニウム・亜鉛板製○ステンレス鋼板製）		屋内	○カラーアクリル板 ○溶融アルミニウム・亜鉛板 ○ステンレス鋼板 ○アルミニウム板			屋外	○カラーアクリル板 ○溶融アルミニウム・亜鉛板 ○ステンレス鋼板 ○アルミニウム板			4) エアーアクション管の保温厚は 20mm とし、仕様は当該配管の項に準ずる。また保温を行なう範囲はエアーアクションまでとする。	5) 加湿用の水タンクの保温は膨脹タンクに準ずる。			6) 油管の地中埋設管は標準仕様書第2編第2章第7節2.7.3(3)による。	7) 役張管、補給水管の保温は冷温水管に準ずる。			8) 保温を施す膨脹タンク等のための保温は ○要 ※不要とする。	9) 下記部分の冷却水配管は、保温（防露）を行い、仕様は温水管の項による。			()				10) 遠リダクトの保温は、保温厚さ 25mm とし、範囲は国示による。				11) 外気ダクトの保温は、保温厚さ 25mm とする。			○吹出口および吸込ボックス ポックスの材質について、特記がない場合は亜鉛板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は JIS A 4009（空気調和および換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ 0.6mm 以上の亜鉛板は保温厚さ 2.5mm とする。 ○エボキシ樹脂 エボキシ樹脂コーティングおよびライニングの乾燥方法は次による。 ○電線類および電線管 電線類および電線管等については標準仕様書第4編第1章第5節による。 ○ボックス 樹脂管で配管する場合は、合成樹脂ボックスを使用する。 ○容量等の表示 機器の能力、容量等は表示された数値以上とする。 ○誘導電動機 電動機出力が 0.75kW 以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トップランナー-モータ）による。 ○スリーブ 柱、梁および耐震壁以外の箇所で、開口補強が必要かつ、スリーブ径が 200mm 以下の部分に対する場合は、紙製板金を使用してもよい。その場合は、変形防止の措置を講じ、かつ配管施工前に板金を必ず取り除く。 ○鋼材工事 機器付属物および配管、ダクトの支持金物は標準仕様書第2編第4章第6節または改修標準仕様書第2編第7章第5節による。 ○はつり及び穴開け はつりおよび穴開けを行う場合は、改修標準仕様書第2編第4章による。 ○防煙ダンパーおよび防火防煙ダンパー 復帰方式は ※遠方復帰式 ○手動復帰式 ○消音内貼 ダクト内にチヤンバー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は次による。 (1) 消音内貼り部分の外部保温は ○要 ※不要 (2) チヤンバーの寸法は、外形寸法を示す。 (但し、ダクトおよび消音エルボは、内形寸法を示す。) (3) 空気調和機に取付けるチヤンバー、レタシヤンバーおよびダクト系で消音内貼りしたチヤンバーには、内貼り仕様または断熱戸の点検口を設ける。 ○防火区画貫通部等の処理 (1) 標準仕様書第2編2.8.1(1) または改修標準仕様書第2編2.6.1(1) による。 (2) 大臣認定を受けた工法で施工する場合は、認定書の写しを提出し、監督職員の承諾を受けるとともに、認定工の表示を行う。 ○取付栓 防火区画部に取り付ける吹出口、吸込口等で取付栓を必要とするものは鋼鉢を使用する。 ○防火区画 ○平面踏 ○表示 ○ ○指示板 機械室に操作順、注意事項、連絡先および系統図などを記入した指示板を設ける。 ○他工事との取り合い 国面に特記なき場合は、表-2「工事区分表」によるほか、機器の設置位置等取り合いの検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 ●総合調整 下記の項目について調整する。 ●空気調和設備 ○風量調整（測定共） ○水量調整（測定共） ○室内内外空気の温湿度測定 ○室内空気およびじんあいの測定 ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○停電・復電動作確認 ○換気設備 ○風量調整（測定共） ○室内空気およびじんあいの測定 ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○停電・復電動作確認 ○排煙設備 ○風量調整（測定共） ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○給水設備 ○飲料水の水質の測定 ※厚生労働大臣告示119号 第二の一の1の(4)による ○標準仕様書による ○離用水の水質の測定 ※建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則 第四条の2による	●方式 ○全空気方式（O中央 O各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式 ●主要熱源機器 機器 ○吸収冷温水機 ○チーリングユニット ○ボイラー ●空気熱源ヒートポンプユニット ○コージェネレーション装置 ○空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機（OHEP OGHF O） 燃料 ○灯油 ○A重油 ○LPG ○都市ガス ●電気[○深夜電力] ○ペレット ○設計時の温湿度条件 場所 屋外 屋内（調整目標値） 一般居室 ○○○○室 時 期 温度(°B) 湿度(RH) 温度(°B) 湿度(RH) 温度(°B) 湿度(RH) 夏 期 °C % 28°C 50% °C % 冬 期 °C % 19°C 40% °C % ○ダクトの種別 ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保溫					---------	-----------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)	温 度 (°B)		夏 期	28°C	50%		冬 期	19°C	40%	○保温ダクト ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保温					---------	-----------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)	温 度 (°B)		夏 期	28°C	50%		冬 期	19°C	40%	○保温ダクト ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保温					---------	-----------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)	温 度 (°B)		夏 期	28°C	50%		冬 期	19°C	40%	○保温ダクト ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保温					---------	-----------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)	温 度 (°B)		夏 期	28°C	50%		冬 期	19°C	40%	○保温ダクト ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保温					---------	-----------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)	温 度 (°B)		夏 期	28°C	50%		冬 期	19°C	40%	○保温ダクト ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保温					---------	-----------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)	温 度 (°B)		夏 期	28°C	50%		冬 期	19°C	40%	○保温ダクト ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保温					---------	-----------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)	温 度 (°B)		夏 期	28°C	50%		冬 期	19°C	40%	○保温ダクト ○低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト ○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（O共板フランジ工法 Oスライドオンフランジ工法） (ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 ●保温					---------	--------------	-------------------		場 所	屋 外	屋 内 (調 整 目 標 値)		一 般 居 室	○ ○ ○ ○ 室	○ ○ ○ ○ 室		時 期	温 度 (°B)</td		



京福コンサルタント株式会社

福井県小浜市多田11号2番地1 TEL: (0770) 56-2345

一級建築士事務所 福井県知事登録 第い-871号

一級建築士 国土交通大臣登録 第338447号 神崎 洋孝

令和5年5月

工事名称

小浜キャンパス 海洋生物資源学部棟 空調設備更新工事

図面名称

案内図・配置図

図面番号

M 03

15

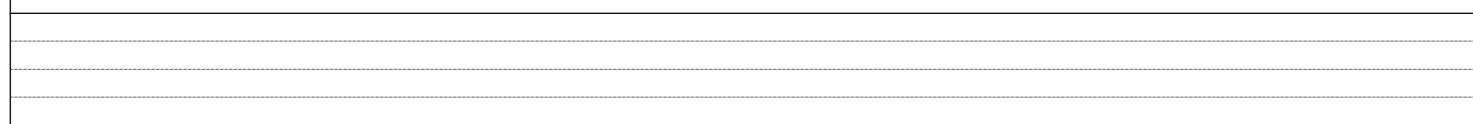
1/500

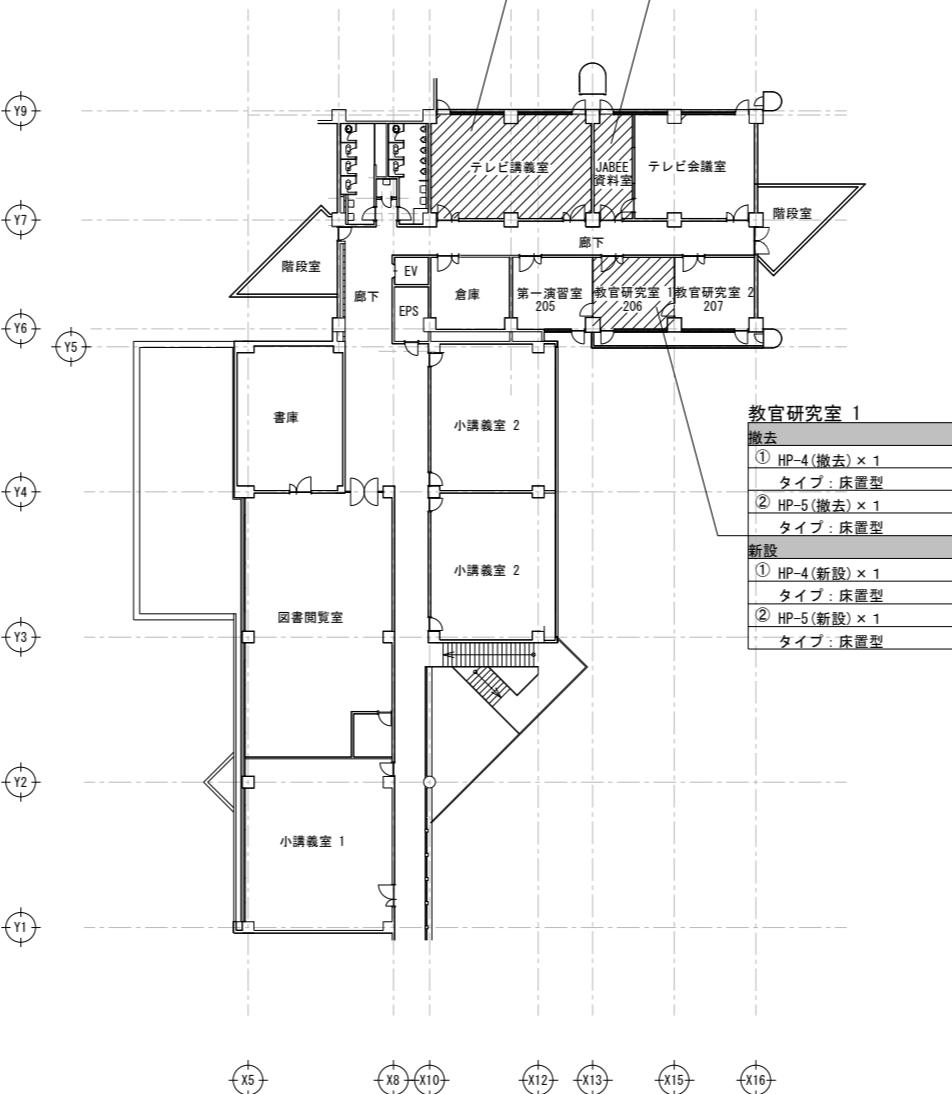
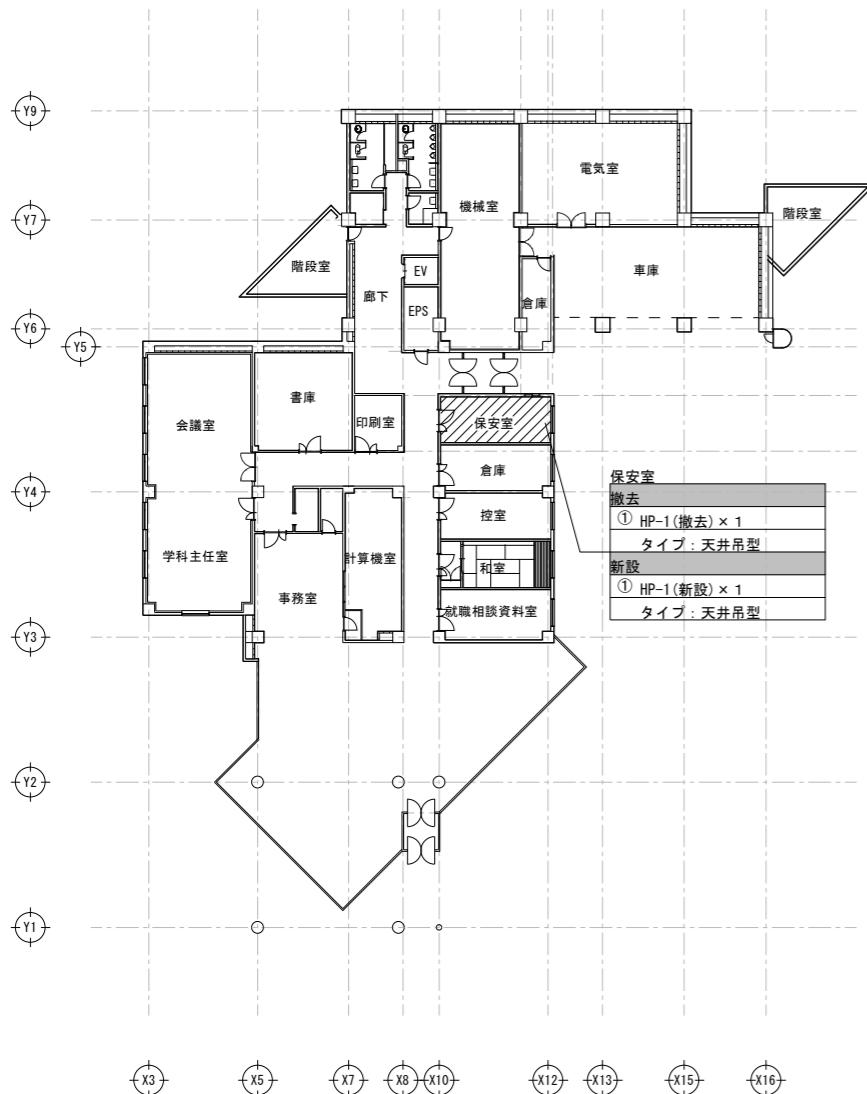
撤去機器表(撤去・処分する機器)

設置場所 (室名等)	機器記号	機器名称	型式	型番(既設機器メーカー)	台数	仕様	電源	備考
IF 保安室	HP-1(撤去)	空冷ヒートポンプエアコン	天井吊型	AT-1103M	30	冷房能力 : 3.6kW 暖房能力 : 4.6kW	3φ-200V	リモコン撤去(再利用しない)
ZF テレビ講堂			重塗装対策仕様					
ZF JABEE資料室			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 1.1kW		
4F 海洋生物学第1実験室 401						送風機出力 : 0.07kW(内)・0.1kW(外)		
4F 海洋生物学第2実験室 402						冷媒ガス : R-22		
4F 水産資源生物学第1実験室 408						外形寸法 : 430H×680W×960D		
5F 水産資源生物学実験室 502						重量 : 81kg		
SF 廉室 508								
6F 食品化学第1実験室 602								
6F 食品工学第1実験室 608								
7F 海洋生態代謝学第1実験室 701								
7F 海洋生態代謝学第2実験室 702								
4F 水産資源生物学第1実験室 408	HP-2(撤去)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	AP-751M L	2	冷房能力 : 2.6kW 暖房能力 : 2.9kW	3φ-200V	ベリカウンター取り外し(再利用する)
6F 食品工学第1実験室 608			重塗装対策仕様					
			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 0.75kW		
						送風機出力 : 0.01kW(内)・0.1kW(外)		
						冷媒ガス : R-22		
						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		
						重量 : 95kg		
4F 第1研究室 403	HP-3(撤去)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	AP-751M R	4	冷房能力 : 2.6kW 暖房能力 : 2.9kW	3φ-200V	ベリカウンター取り外し(再利用する)
6F 食品化学第1実験室 602			重塗装対策仕様					
7F 海洋生態代謝学第2実験室 702			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 0.75kW		
7F 第1研究室 703						送風機出力 : 0.01kW(内)・0.1kW(外)		
						冷媒ガス : R-22		
						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		
						重量 : 95kg		
ZF 教官研究室 206	HP-4(撤去)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	AP-1101M L	6	冷房能力 : 4.1kW 暖房能力 : 4.7kW	3φ-200V	ベリカウンター取り外し(再利用する)
4F 第1研究室 403			重塗装対策仕様					
5F 水産資源生物学実験室 502			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 1.1kW		
5F 第1研究室 514						送風機出力 : 0.03kW(内)・0.2kW(外)		
5F 第2研究室 515						冷媒ガス : R-22		
7F 第1研究室 703						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		
						重量 : 100kg		
ZF 教官研究室 206	HP-5(撤去)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	AP-1101M R	4	冷房能力 : 4.1kW 暖房能力 : 4.7kW	3φ-200V	ベリカウンター取り外し(再利用する)
5F 水産資源生物学実験室 502			重塗装対策仕様					
5F 第1研究室 514			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 1.1kW		
5F 第2研究室 515						送風機出力 : 0.03kW(内)・0.2kW(外)		
7F 第1研究室 703						冷媒ガス : R-22		
						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		
						重量 : 100kg		

新設機器表

設置場所 (室名等)	機器記号	機器名称	型式	型番(新設機器メーカー)	台数	仕様	電源	備考
IF 保安室	HP-1(新設)	空冷ヒートポンプエアコン	天井吊型	ATP32FA	30	冷房能力 : 3.2kW 暖房能力 : 4.0kW	3φ-200V	付属品
ZF テレビ講堂			重塗装対策仕様					ドレンホース
ZF JABEE資料室			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 0.9kW		エア抜きタッピング
4F 海洋生物学第1実験室 401						送風機出力 : 0.2kW(内)・0.3kW(外)		吹出吸込口
4F 海洋生物学第2実験室 402						冷媒ガス : R410A		フィルタ(比色法65%)
4F 水産資源生物学第1実験室 408						外形寸法 : 430H×680W×1,220D		押印開閉器
5F 水産資源生物学実験室 502						重量 : 98kg		リモコン
SF 廉室 508								
6F 食品化学第1実験室 602								
6F 食品工学第1実験室 608								
7F 海洋生態代謝学第1実験室 701								
7F 海洋生態代謝学第2実験室 702								
4F 水産資源生物学第1実験室 408	HP-2(新設)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	APP22EA (L)	2	冷房能力 : 2.2kW 暖房能力 : 2.5kW	3φ-200V	付属品
6F 食品工学第1実験室 608			重塗装対策仕様					・ホースL型・電気ヒータ組込(1.0kW)
			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 0.75kW		・ドレンL型管・背面開口・フランジ変更
						送風機出力 : 0.02kW(内)・0.11(外)		・ドレンゴムブッシュ・脚部変更
						冷媒ガス : R410A		・電源コード(引掛キャップ付)
						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		・フィルタ(洗浄型+比色法65%)
						重量 : 102kg		・タイヤーホース(リモコン(コネクタ付))
								・リモコン架台吹出フランジ
4F 第1研究室 403	HP-3(新設)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	APP22EA (R)	4	冷房能力 : 2.2kW 暖房能力 : 2.5kW	3φ-200V	付属品
6F 食品化学第1実験室 602			重塗装対策仕様					・ホースL型・電気ヒータ組込(1.0kW)
7F 海洋生態代謝学第2実験室 702			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 0.75kW		・ドレンL型管・背面開口・フランジ変更
7F 第1研究室 703						送風機出力 : 0.02kW(内)・0.11(外)		・ドレンゴムブッシュ・脚部変更
						冷媒ガス : R410A		・電源コード(引掛けキャップ付)
						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		・フィルタ(洗浄型+比色法65%)
						重量 : 102kg		・タイヤーホース(リモコン(コネクタ付))
								・リモコン架台吹出フランジ
ZF 教官研究室 206	HP-4(新設)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	APP36EA (L)	6	冷房能力 : 3.6kW 暖房能力 : 4.0kW	3φ-200V	付属品
4F 第1研究室 403			重塗装対策仕様					・ホースL型・電気ヒータ組込(1.5kW)
5F 水産資源生物学実験室 502			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 1.1kW		・ドレンL型管・背面開口・フランジ変更
5F 第1研究室 514						送風機出力 : 0.03kW(内)・0.11(外)		・ドレンゴムブッシュ・脚部変更
5F 第2研究室 515						冷媒ガス : R410A		・電源コード(引掛けキャップ付)
7F 第1研究室 703						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		・フィルタ(洗浄型+比色法65%)
						重量 : 105kg		・タイヤーホース(リモコン(コネクタ付))
								・リモコン架台吹出フランジ
ZF 教官研究室 206	HP-5(新設)	空冷ヒートポンプエアコン	床置型	APP36EA (R)	4	冷房能力 : 3.6kW 暖房能力 : 4.0kW	3φ-200V	付属品
5F 水産資源生物学実験室 502			重塗装対策仕様					・ホースL型・電気ヒータ組込(1.5kW)
5F 第1研究室 514			日本ビーマック株式会社製			圧縮機出力 : 1.1kW		・ドレンL型管・背面開口・フランジ変更
5F 第2研究室 515						送風機出力 : 0.03kW(内)・0.11(外)		・ドレンゴムブッシュ・脚部変更
7F 第1研究室 703						冷媒ガス : R410A		・電源コード(引掛けキャップ付)
						外形寸法 : 720H×1,635W×295D		・フィルタ(洗浄型+比色法65%)
						重量 : 105kg		・タイヤーホース(リモコン(コネクタ付))
								・リモコン架台吹出フランジ

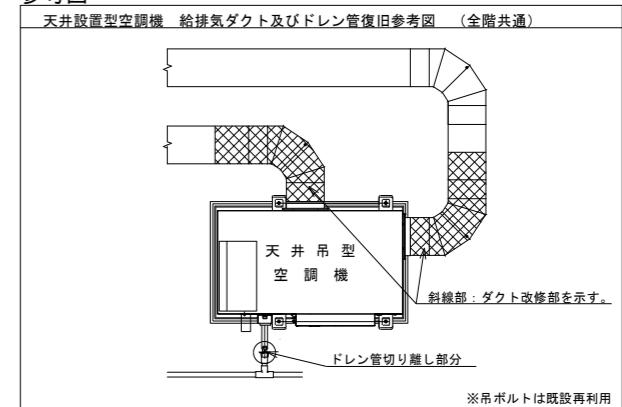




テレビ講堂室	
撤去	① HP-1(撤去) × 4
タイプ	天井吊型
新設	
① HP-1(新設) × 4	タイプ: 天井吊型

JABEE 資料室	
撤去	① HP-1(撤去) × 1
タイプ	天井吊型
新設	
① HP-1(新設) × 1	タイプ: 天井吊型

参考図



共通工事概要

床置型 空調設備工事概要

- 機器工事
 - 既設空調機器の撤去（既設ベリカウンター取り外し W1750×H800×D430）
 - 新設空調機の据付（既設ベリカウンター復旧 W1750×H800×D430）
- 配管工事
 - ドレン管を機器据付時に既設ドレン管に接続
- 保温工事
 - ドレン管の保温
 - ベリカウンター吹出口と機器本体吹出口をグラスウールダクトで接続する
- 電気工事
 - 電気の切離し及び聞き据付後の再接続
 - 操作部の位置は監督職員と協議の上決定する事

天井吊型 空調機工事概要

- 機器工事
 - 既設空調機器の撤去
 - 新設空調機の据付
- ダクト工事
 - 給排気ダクト（φ250mm）を切断
 - 機器据付後フレキシブルダクト φ250mm (L=1000mm迄の範囲) で接続、復旧
- 配管工事
 - 既設ドレン管を機器より切り離し、付属品のドレンホースにて接続
- 保温工事
 - ドレン・ダクト配管接続後、保温材により補修
- 電気工事
 - 電源切り離し及び機器据付後、再接続
 - 既設リモコン撤去後、新設リモコン設置 ※リモコン線再利用
- 天井改修工事
 - 化粧石膏ボードの場合 : 天井材を取り外し機器取付後、復旧（再利用）
 - ロックウール吸音板の場合 : 天井材を撤去処分し機器取付後、復旧（新設）



京福コンサルタント株式会社

福井県小浜市多田11号2番地1 TEL: (0770) 56-2345

一級建築士事務所 福井県知事登録 第い-871号

一級建築士 国土交通大臣登録 第33847号 神崎 洋孝

令和5年5月

工事名称

小浜キャンパス 海洋生物資源学部棟 空調設備更新工事

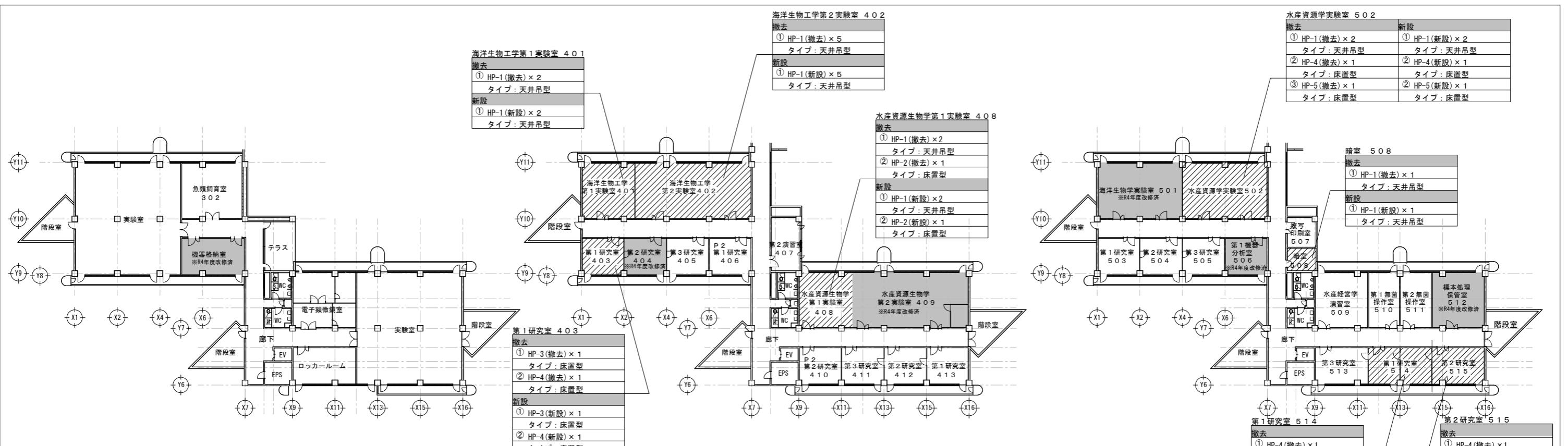
図面名稱

各階平面図（その1）

図面番号

M 05
18

1/250



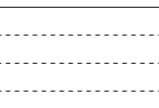
共通工事概要

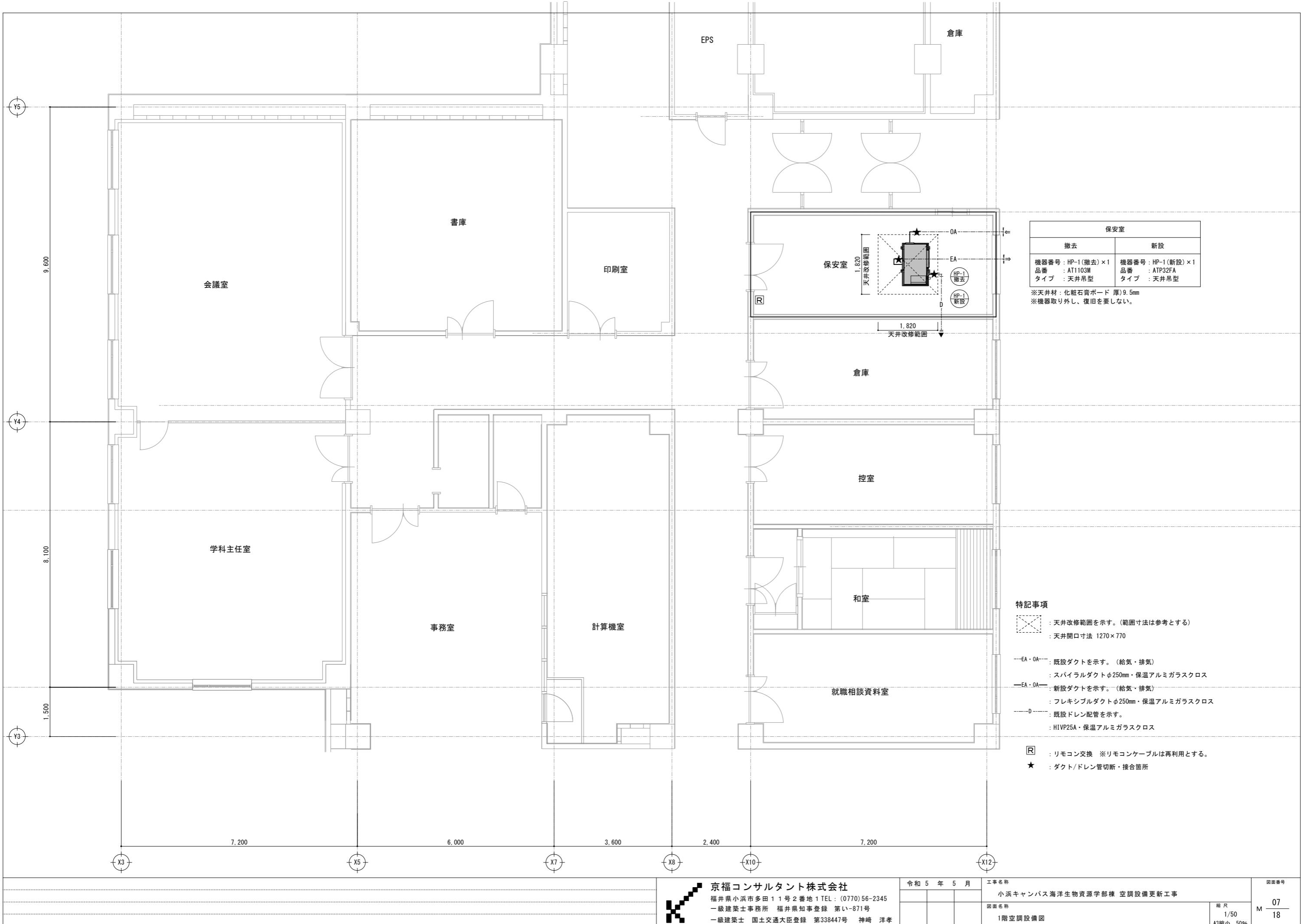
床置型 空調設備工事概要

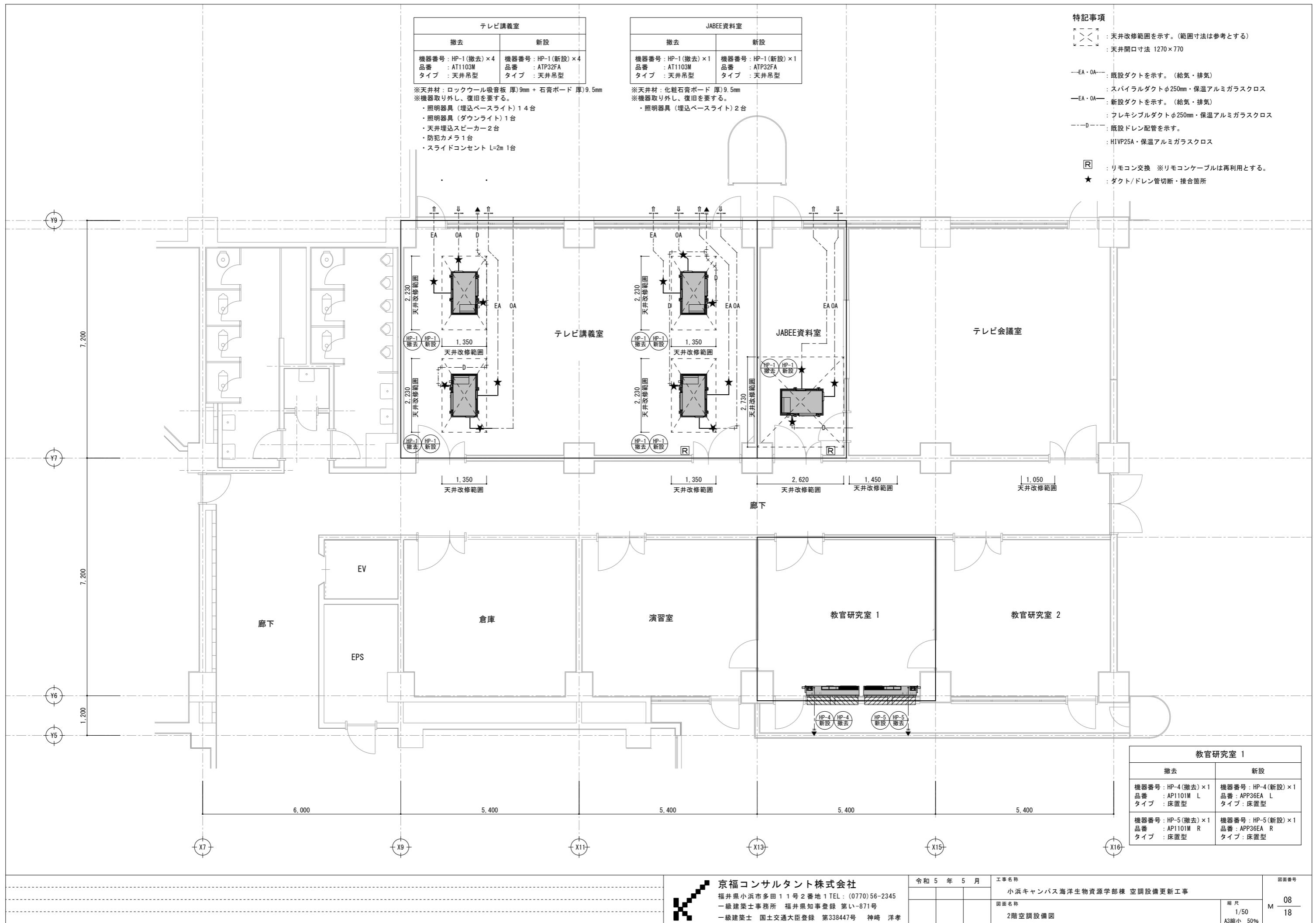
- ・機器工事
既設空調機器の撤去
新設空調機の据付
- ・配管工事
ドレン管を機器据付時に既設ドレン管に接続
- ・保温工事
ドレン管の保温
ペリカウンター吹出口と機器本体吹出口をグラスウールダクトで接続する
- ・電気工事
電気の切離し及び聞き据付後の再接続
操作部の位置は監督職員と協議の上決定する事

天井吊型 空調機工事概要

- ・機器工事
既設空調機器の撤去
新設空調機の据付
- ・ダクト工事
給排気ダクト（φ250mm）を切断
機器据付後フレキシブルダクトφ250mm（L=1000mm迄の範囲）で接続、復旧
- ・配管工事
既設ドレン管を機器より切り離し、付属品のドレンホースにて接続
- ・保温工事
ドレン・ダクト配管接続後、保温材により補修
- ・電気工事
電源切り離し及び機器据付後、再構築
既設リモコン撤去後、新設リモコン設置　※リモコン線再利用
- ・天井改修工事
化粧石膏ボードの場合：天井材を取り外し機器取付後、復旧（再利用）
ロックウール吸音板の場合：天井材を撤去処分し機器取付後、復旧（新設）





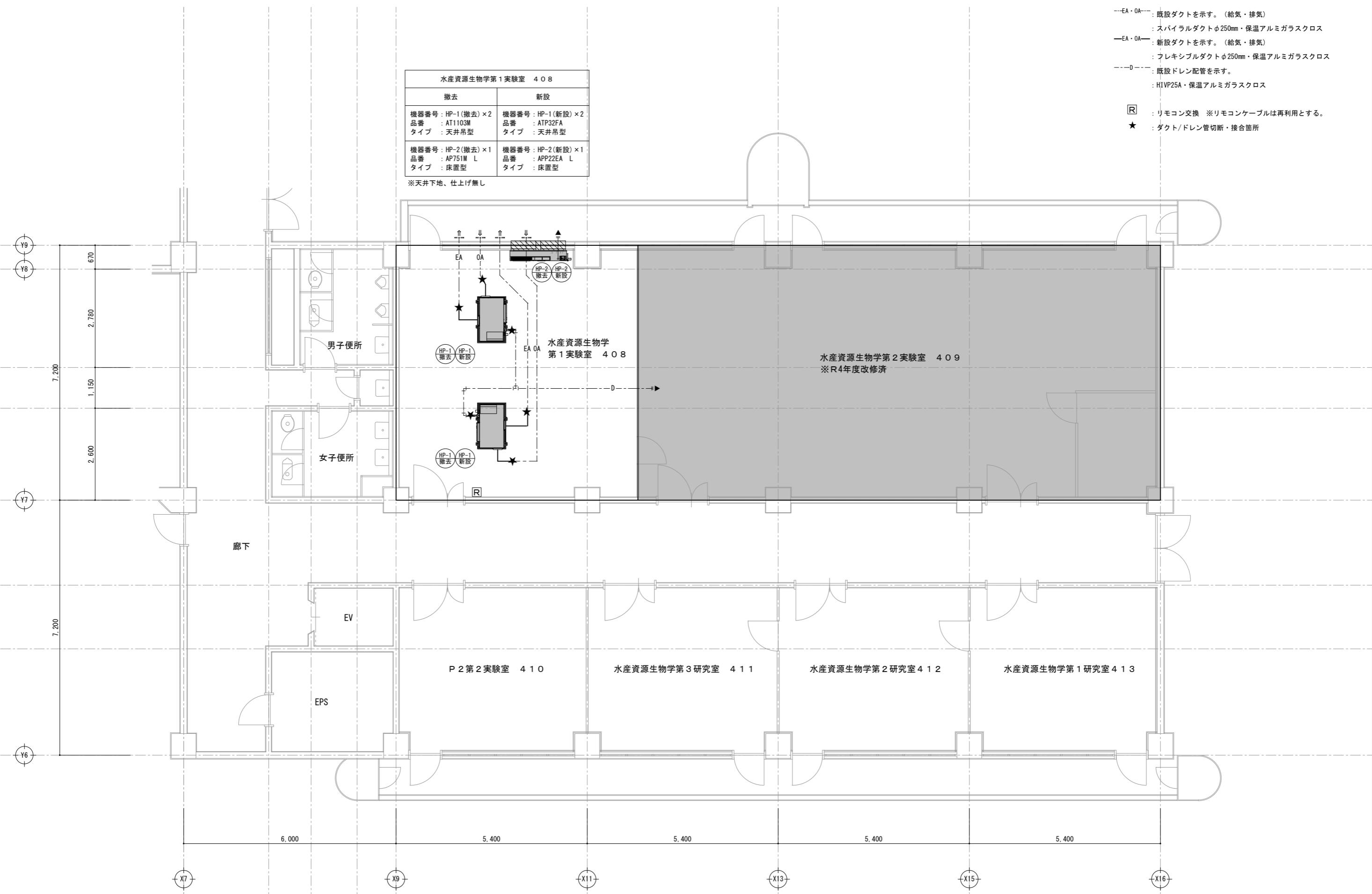


特記事項

- EA・OA--- : 既設ダクトを示す。（給気・排気）
- EA・OA--- : スパイラルダクトφ250mm・保温アルミガラスクロス
- EA・OA--- : 新設ダクトを示す。（給気・排気）
- EA・OA--- : フレキシブルダクトφ250mm・保温アルミガラスクロス
- D--- : 既設ドレン配管を示す。
- D--- : HVP25A・保温アルミガラスクロス
- 〔R〕 : リモコン交換 ※リモコンケーブルは再利用とする。
- ★ : ダクト／ドレン管切断・接合箇所

水産資源生物学第1実験室 408	
撤去	新設
機器番号：HP-1(撤去) × 2	機器番号：HP-1(新設) × 2
品番：AT1103M	品番：ATP32FA
タイプ：天井吊型	タイプ：天井吊型
機器番号：HP-2(撤去) × 1	機器番号：HP-2(新設) × 1
品番：AP751M L	品番：APP22EA L
タイプ：床置型	タイプ：床置型

※天井下地、仕上げ無し



京福コンサルタント株式会社

福井県小浜市多田11号2番地1 TEL: (0770) 56-2345

一級建築士事務所 福井県知事登録 第い-871号

一級建築士 国土交通大臣登録 第33847号 神崎 洋孝

令和5年5月

工事名称
小浜キャンパス海洋生物資源学部棟 空調設備更新工事

図面番号

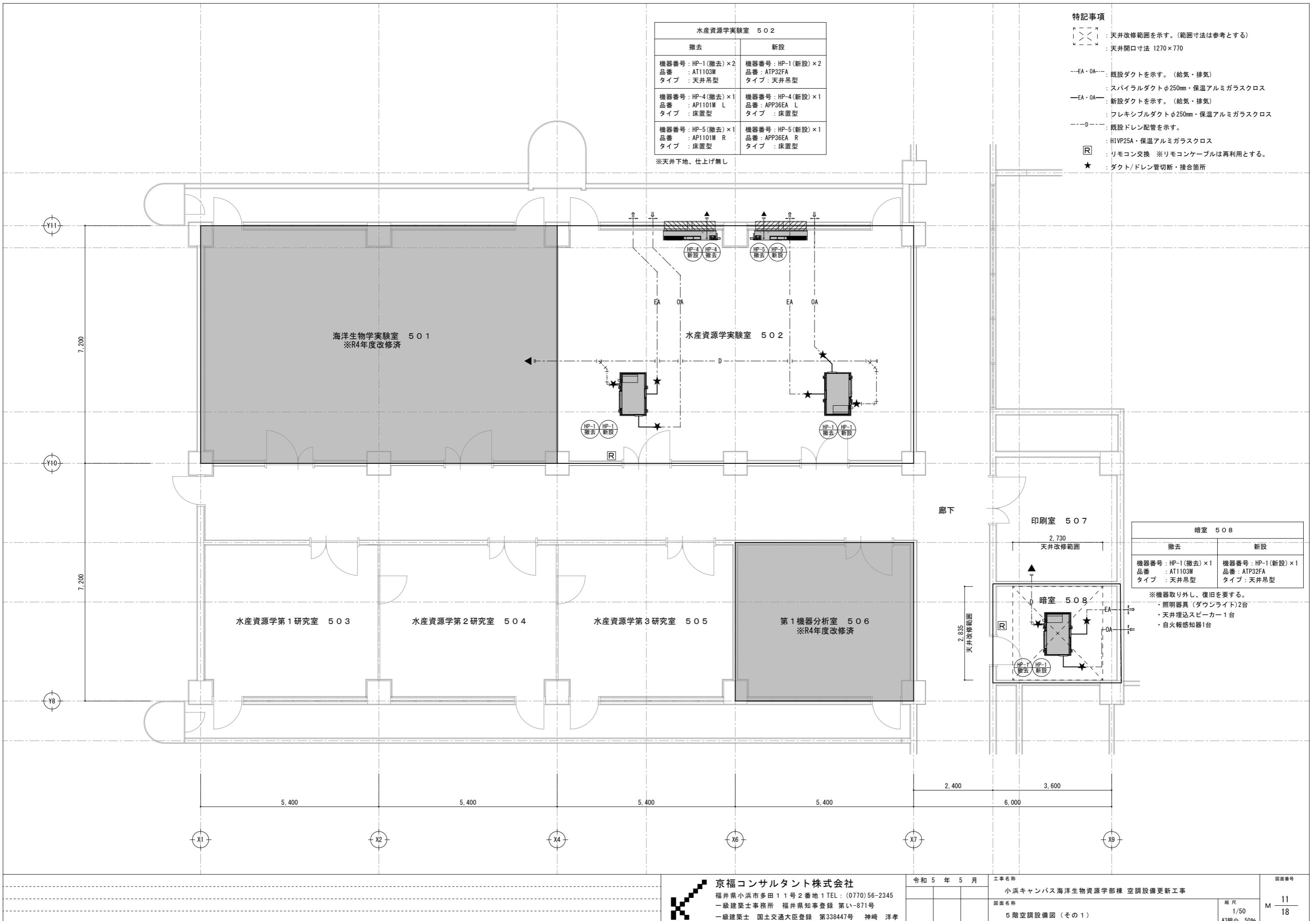
M 10

図面名稱

4階空調設備図（その2）

縮尺
1/50

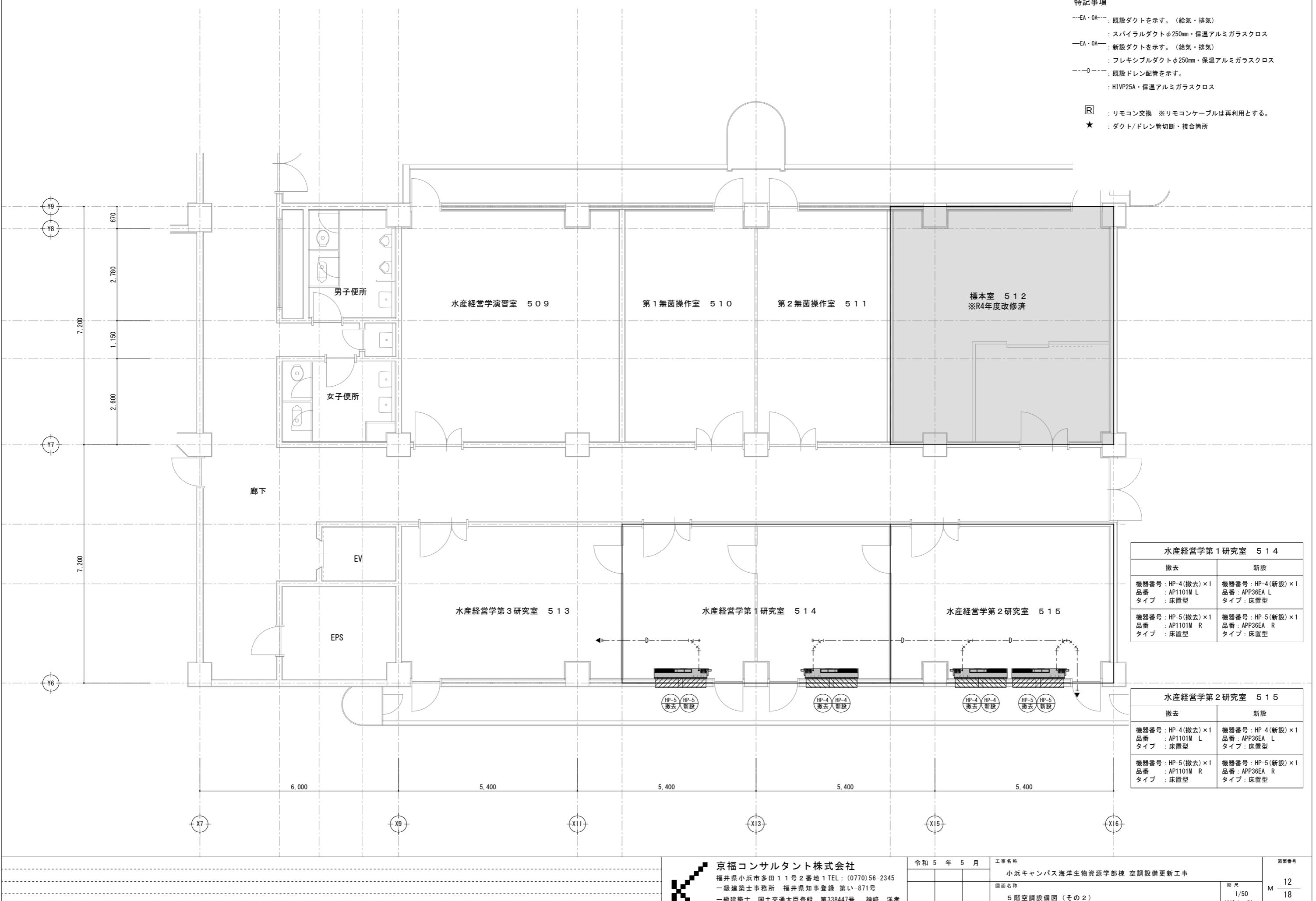
A3縮小 50%

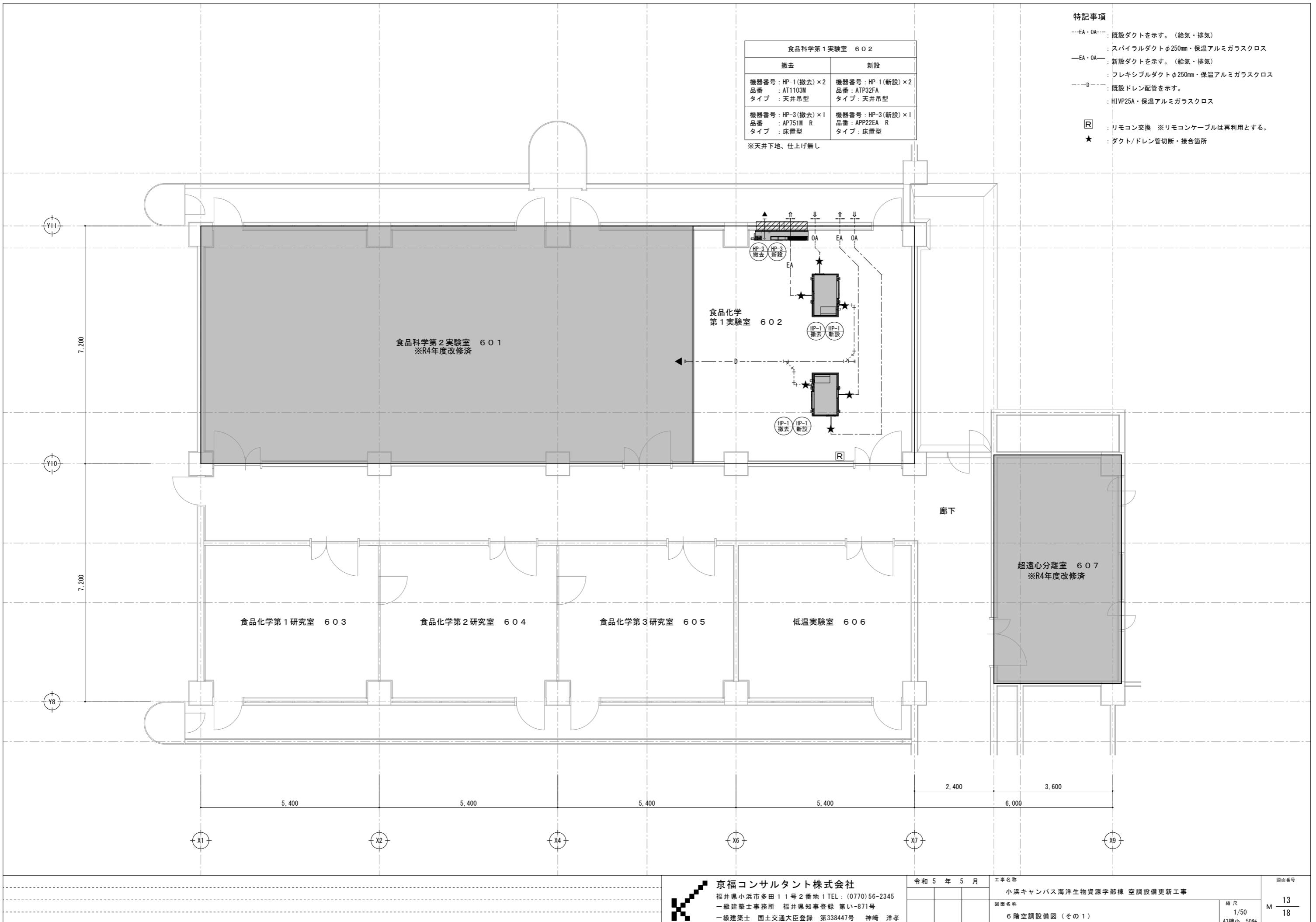


特記事項

- EA・OA-- : 既設ダクトを示す。（給気・排気）
- ：スパイラルダクト φ250mm・保温アルミガラスクロス
- EA・OA— : 新設ダクトを示す。（給気・排気）
- ：フレキシブルダクト φ250mm・保温アルミガラスクロス
- D-- : 既設ドレン配管を示す。
- ：HIVP25A・保温アルミガラスクロス

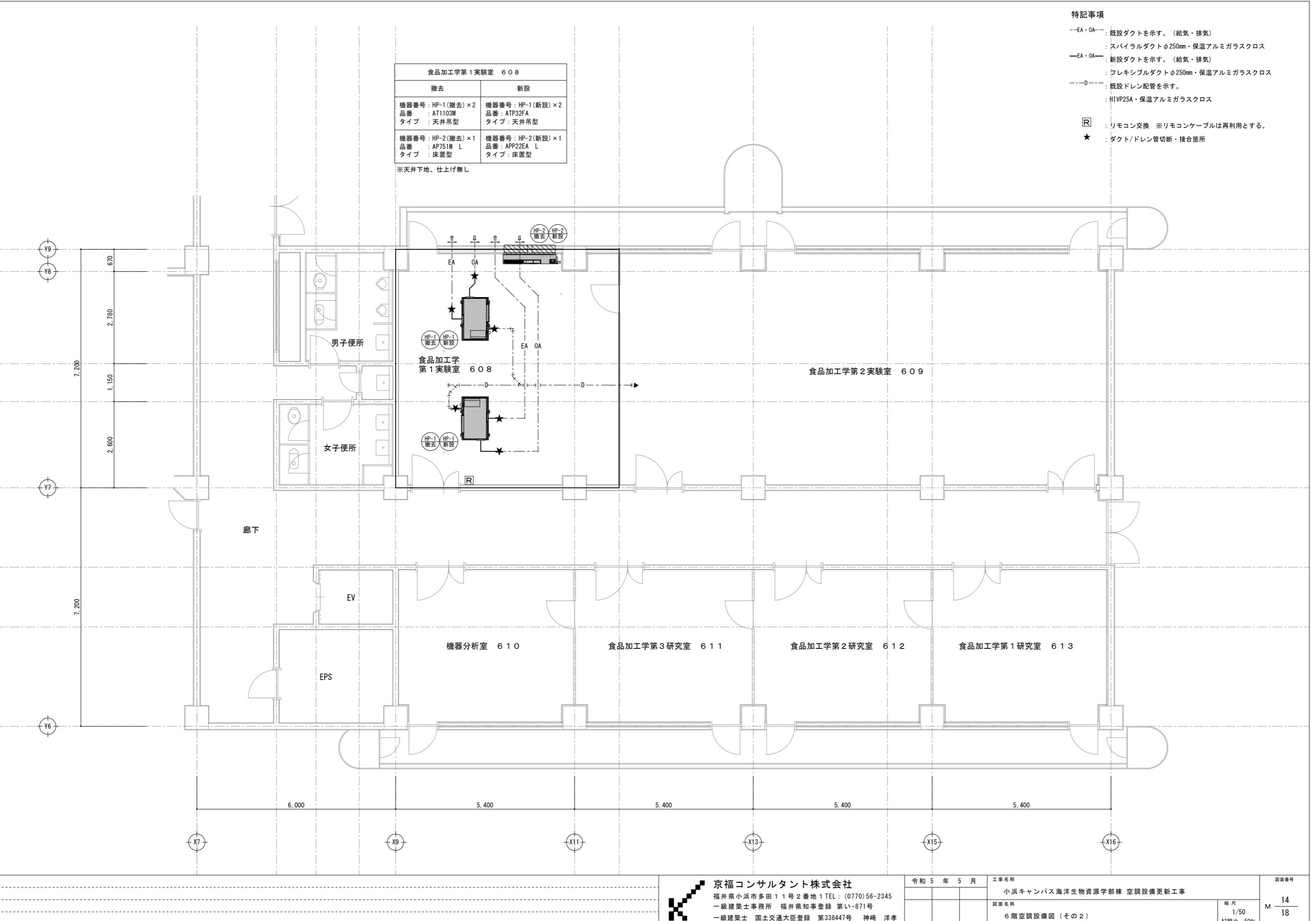
□ : リモコン交換 ※リモコンケーブルは再利用とする。
★ : ダクト/ドレン管切断・接合箇所





特記事項

- EA・OA-- : 既設ダクトを示す。(給気・排気)
- EA・OA-- : スパイラルダクトφ250mm・保温アルミガラスクロス
- EA・OA-- : 新設ダクトを示す。(給気・排気)
- D-- : フレキシブルダクトφ250mm・保温アルミガラスクロス
- D-- : 既設ドレン配管を示す。
- D-- : H1VP25A・保温アルミガラスクロス
- : リモコン交換 ※リモコンケーブルは再利用とする。
- ★ : ダクト/ドレン管切断・接合箇所

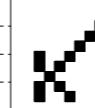
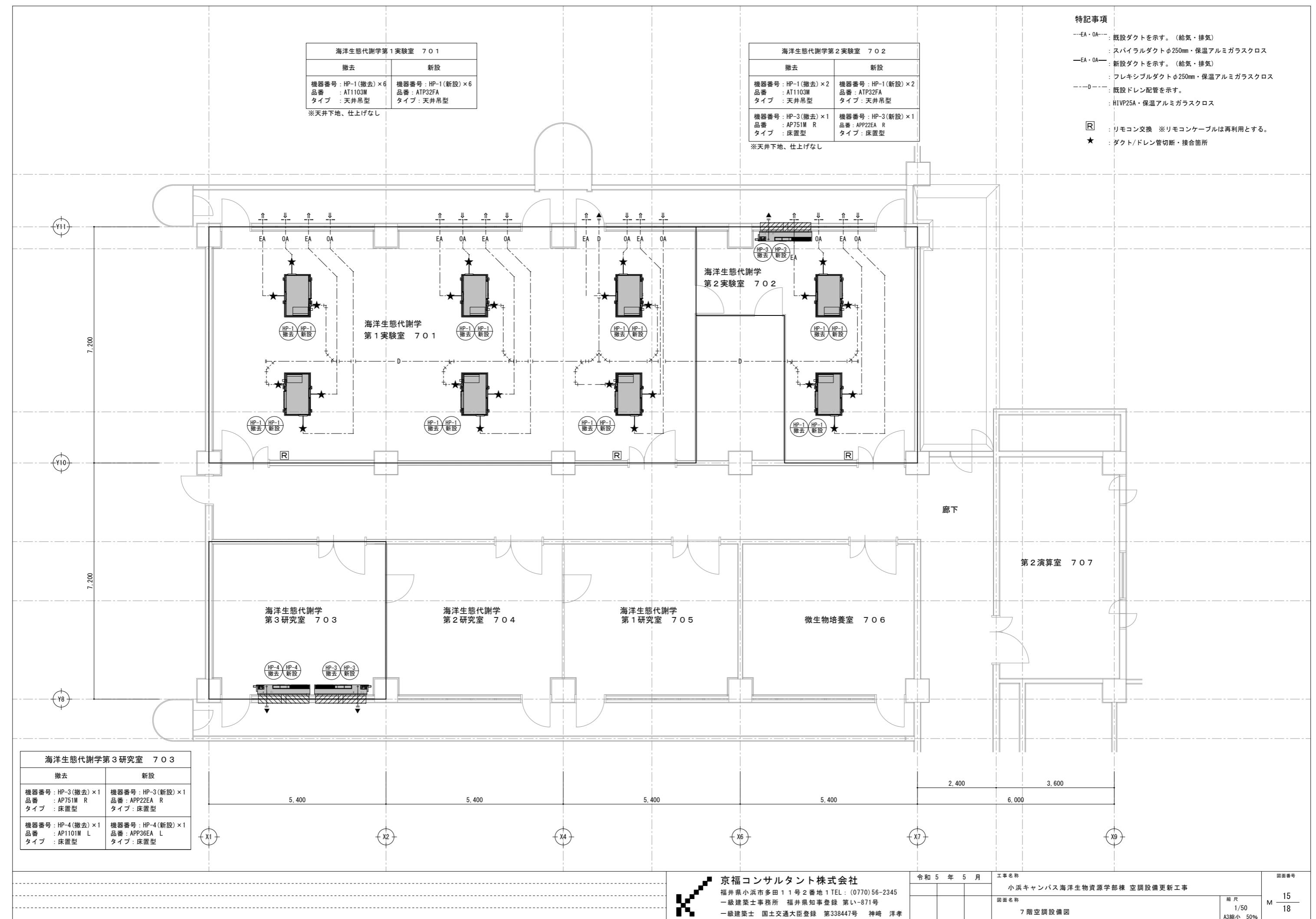


特記事項

- EA・OA-- : 既設ダクトを示す。（給気・排気）
- EA・OA-- : スパイラルダクトφ250mm・保温アルミガラスクロス
- EA・OA-- : 新設ダクトを示す。（給気・排気）
- EA・OA-- : フレキシブルダクトφ250mm・保温アルミガラスクロス
- D--- : 既設ドレン配管を示す。
- D--- : HVP25A・保温アルミガラスクロス
- : リモコン交換 ※リモコンケーブルは再利用とする。
- ★ : ダクト／ドレン管切断・接合箇所

海洋生態代謝学第1実験室 701	
撤去	新設
機器番号 : HP-1(撤去) × 6 品番 : AT1103M タイプ : 天井吊型	機器番号 : HP-1(新設) × 6 品番 : ATP32FA タイプ : 天井吊型
※天井下地、仕上げなし	

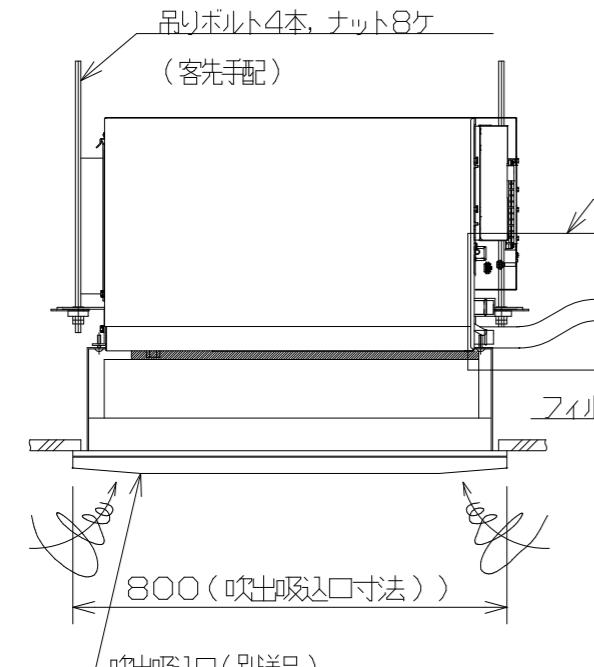
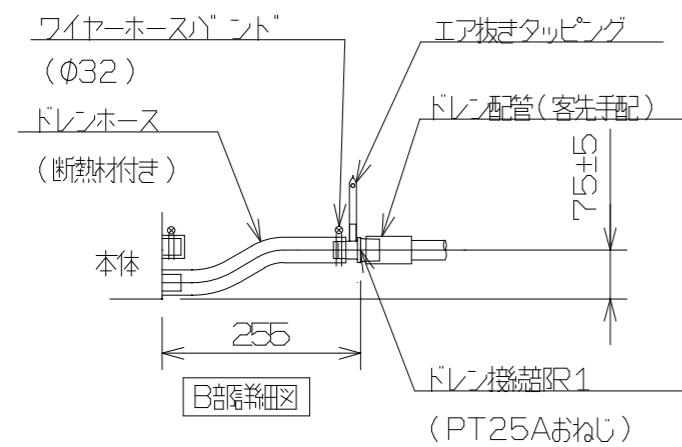
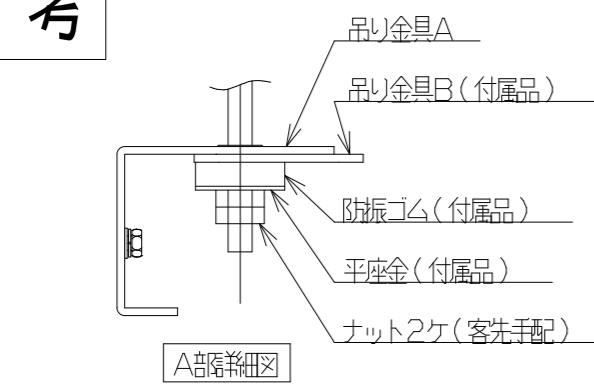
海洋生態代謝学第2実験室 702	
撤去	新設
機器番号 : HP-1(撤去) × 2 品番 : AT1103M タイプ : 天井吊型	機器番号 : HP-1(新設) × 2 品番 : ATP32FA タイプ : 天井吊型
機器番号 : HP-3(撤去) × 1 品番 : AP751M R タイプ : 床置型	機器番号 : HP-3(新設) × 1 品番 : APP22EA R タイプ : 床置型
※天井下地、仕上げなし	



京福コンサルタント株式会社
福井県小浜市多田11号2番地1 TEL: (0770) 56-2345
一級建築士事務所 福井県知事登録 第い-871号
一級建築士 国土交通大臣登録 第33847号 神崎 洋孝

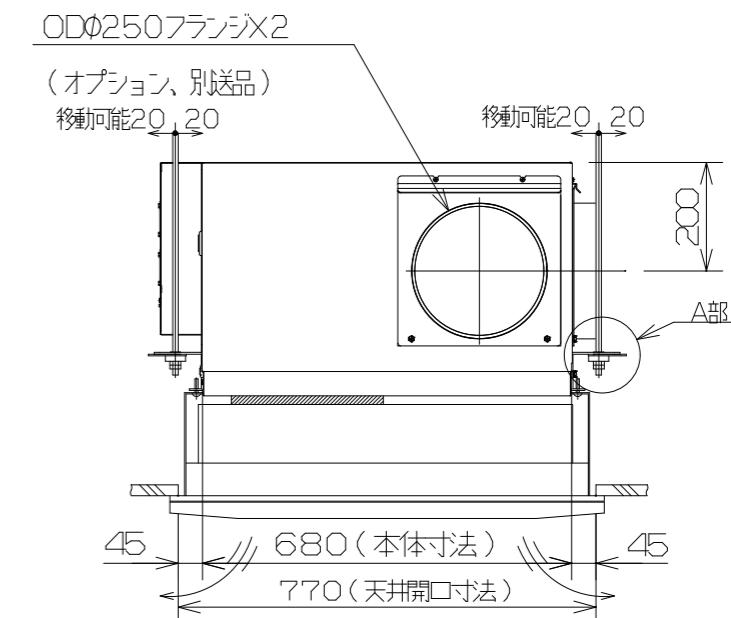
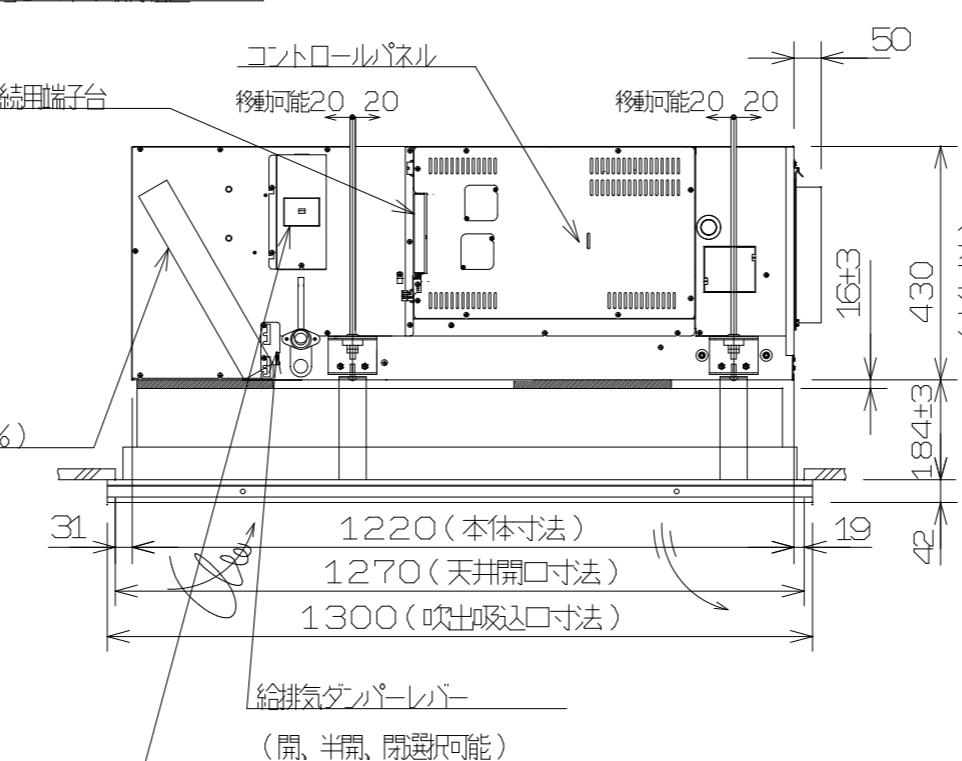
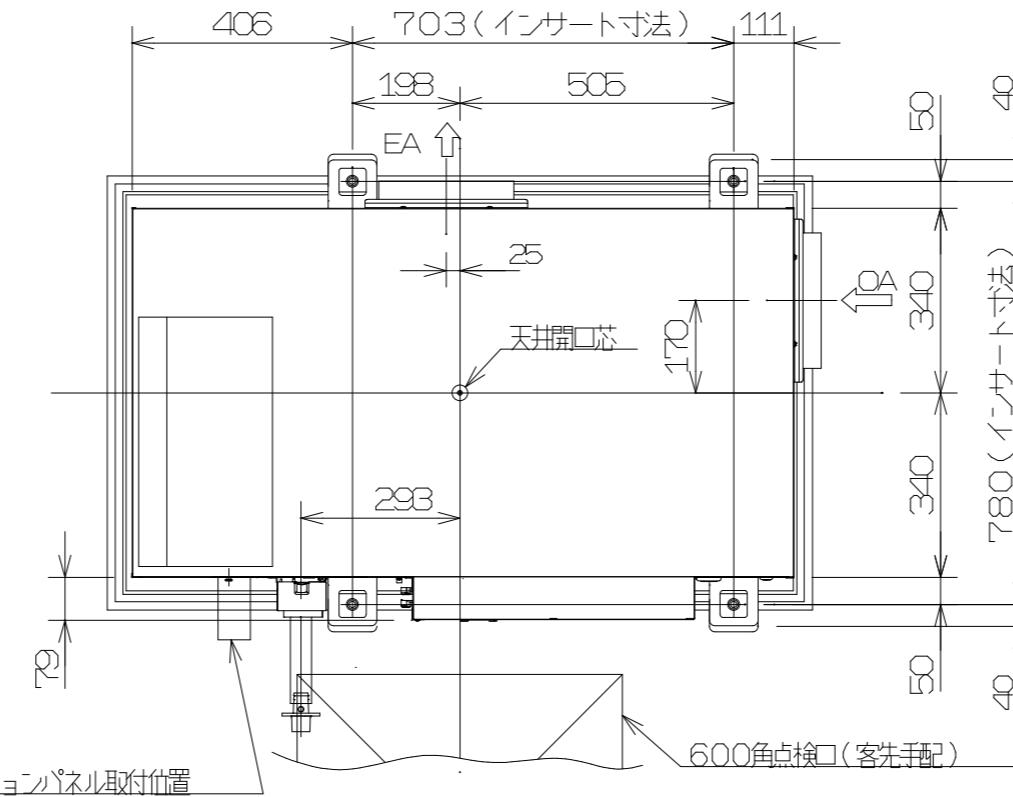
令和5年5月	工事名称	図面番号
	小浜キャンパス 海洋生物資源学部棟 空調設備更新工事	M 15
	図面名稱	M 18
	7階空調設備図	1/50 A3縮小 50%

参考



電源機器部 (ブレーカ又は接触開閉器)

(過電流保護付)



京福コンサルタント株式会社

福井県小浜市多田11号2番地1 TEL: (0770) 56-2345

一級建築士事務所 福井県知事登録 第い-871号

一級建築士 国土交通大臣登録 第33847号 神崎 洋孝

令和5年5月

工事名称 小浜キャンパス海洋生物資源学部棟 空調設備更新工事

図面名稱

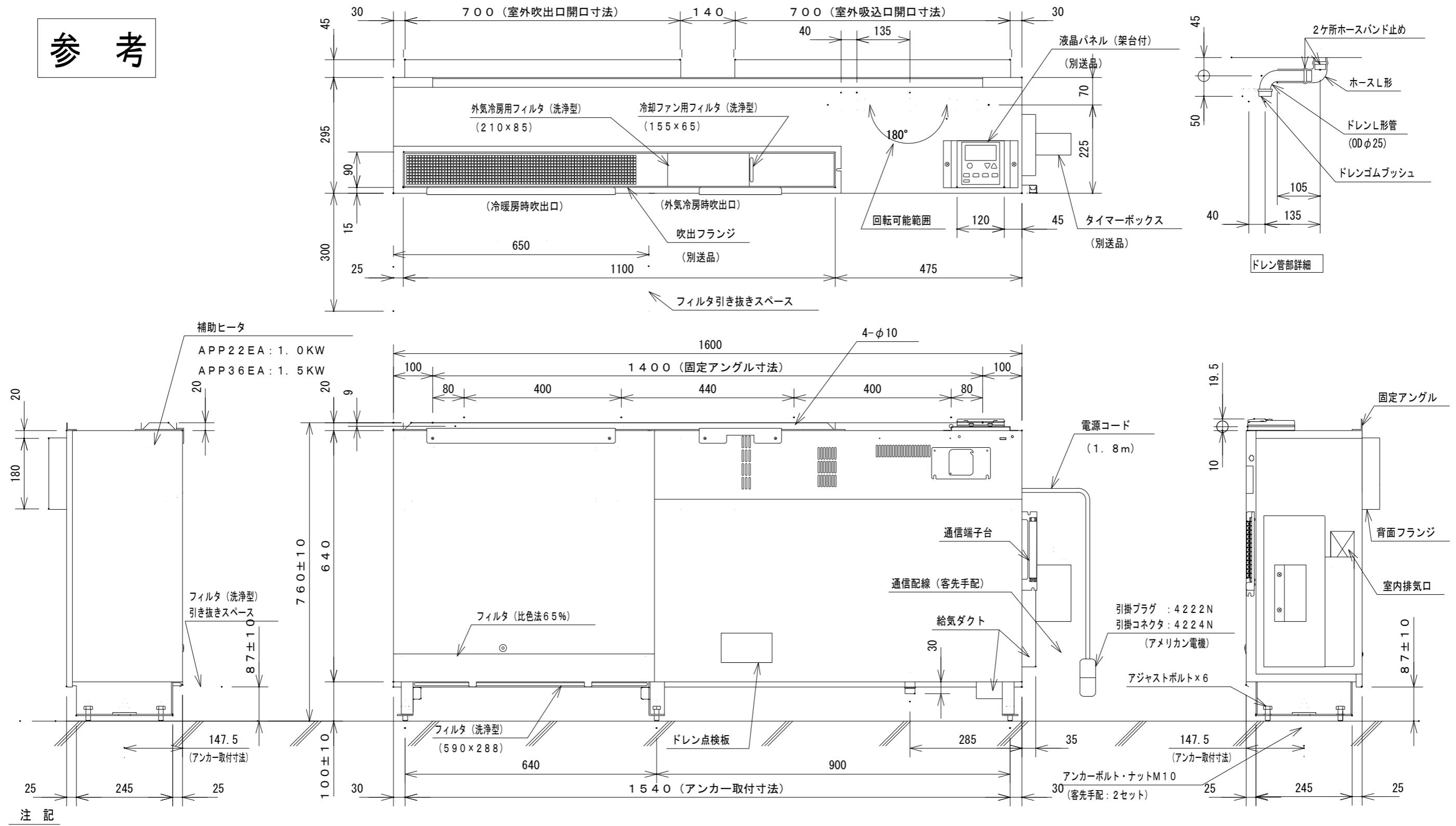
外形寸法図 ATP32FA

図面番号

M 16

18 NO SCALE

参考



注記

1 : 据付けの際、本体脚部アジャストボルト（6本）を調整し、背面フランジとサッシ側開口を合わせてアンカーボルト

ナットM10（客先手配、2セット）と付属品の角座金にて床面に確実に固定してください。また、本体上面の固定アングルにて背面フランジとサッシ側を固定してください。

2 : 本体ドレン排水接続、電源線・計装線接続、別送部品組付けは、客先施工となります。

3 : ヒータ付ユニットの場合、吹出口用グリル（客先手配）は、100°C以上の耐熱性の物を使用してください。

また、ヒータ付きと自然蒸発式加湿器の併用は出来ません。



京福コンサルタント株式会社

福井県小浜市多田11号2番地1 TEL: (0770) 56-2345

一級建築士事務所 福井県知事登録 第い-871号

一級建築士 国土交通大臣登録 第33847号 神崎 洋孝

令和5年5月

工事名称

小浜キャンパス 海洋生物資源学部棟 空調設備更新工事

図面名稱

外形寸法図 APP22EA・36EA L（隠蔽型）

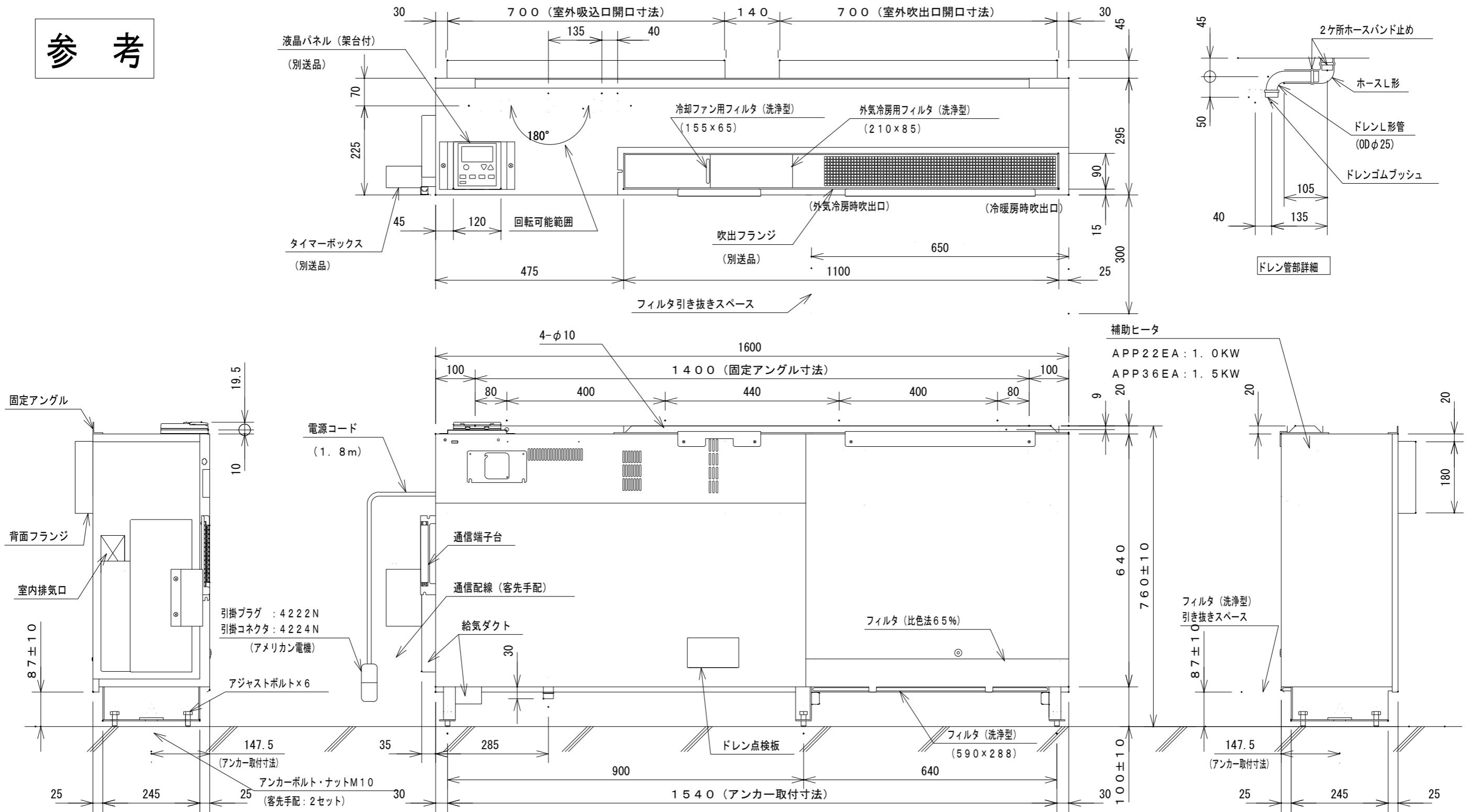
図面番号

M 17

18

NO SCALE

参考



注記

- 1 : 据付けの際、本体脚部アジャストボルト（6本）を調整し、背面フランジとサッシ側開口を合わせてアンカーボルトナットM10（客先手配、2セット）と付属品の角座金にて床面に確実に固定してください。また、本体上面の固定アングルにて背面フランジとサッシ側を固定してください。
- 2 : 本体ドレン排水接続、電源線・計装線接続、別送部品組付けは、客先施工となります。
- 3 : ヒータ付ユニットの場合、吹出口用グリル（客先手配）は、100°C以上の耐熱性の物を使用してください。
また、ヒータ付きと自然蒸発式加湿器の併用は出来ません。

